

私の中高6年間を通した学生生活の中で最も影響が大きかったのは、国際教養コースのカリキュラムに含まれている、高2次でのニュージーランドへの留学だと考えます。中学生の頃は実を言うと、一生海外に行きたくないと思っていました。しかし、とある機会に2学年上の先輩が国際教養コース生として留学先で奮闘する姿を見て、「自分も先輩みたいになっこのいい高校生になりたい!」という思いが芽生えました。実際に留学してみると文化や言語の違いなどで困難の絶えない日々が続いていましたが、帰国前になるとかけがえのない友達もたくさんでき、自分の英語力も留学前に比べて格段に上達したと思えるようになりました。しかしこうした成果を得ることができたのは、私一人の力では無理だったと思います。留学前には現地での生活に適應するためのカリキュラム、留学後にはそこで培った英語力を維持するためのカリキュラムが豊富に用意されていました。これらのカリキュラムによって英語力を高い水準で維持することができ、志望大学に合格するだけでなく、IELTS オーバースコア 6.5 という、海外基準の英語外部試験で良い成績を残せたのだと思います。

私は中高通して生徒会や文化祭執行部など、学校内のイベントの運営を行う組織に所属していました。私は昔からイベントの裏方や運営として働くことが好きでした。自分たちで企画したものが多くの人々に喜んでもらえるときの達成感や、仲間と話し合いながらより良いものに高めあっていく過程はとても刺激になり、ただただ楽しかったです。

茨中・茨高の良いところは、先生方が私たち生徒と同じ目線で物事に向き合ってくれるという点です。私は子供の頃から、大人や身分が高いとされる人から行動を強制されることがとても嫌いでした。そのため物事を考えるときは自分の意志を最も大事にしていました。この学校の先生方は私たちに解決法をただ提示することはせず、「まず何が問題となっているのか」「解決につなげるには何が必要なのか」といったことを共に同じ目線で考えてくれました。時には友達のように接したことも少なくありません。そのため成績が上がった時や、合格発表の瞬間はまるで自分事のように一緒に喜んでくれたことが、私にとって一番うれしかったです。

大学では国際関係学を中心とした、より良い国際交流について学ぶと同時に、大学生でないと経験できない貴重な体験をたくさんしていきたいです。そして将来は国際化が進む世界における日本が、日本人だけでなく世界中すべての人々が楽しく暮らしていけるような環境にする手助けをしたいと思っています。